

## 平城京左京七条一坊十六坪の調査（平城第372次）

碁盤の目のように区切られた平城京の地番は、朱雀大路を中心に東を左京、西を右京とし、東西・南北に通じる大路によって区切られた約530m四方の区画を「坊」と呼びます。さらにその中を16の区画に区切り、これを「坪」と呼びました。今回の調査地は、左京七条一坊の十六坪、国道24号線奈良バイパス柏木町交差点の南東にあたります。今からちょうど10年前の1994年におこなった第251～255次の各調査で、約130m四方にわたるこの十六坪のほぼ四分の三を発掘しています。今回はこのときに調査できなかった坪西半の中央部を6月7日から7月23日にかけて調査しました。

検出した奈良時代の主な遺構には、調査区の北辺で東西45m分を検出した幅約1.7mの素掘溝1条、溝の南に沿うかたちでつくられた東西塀3条や、掘立柱建物などがあります。この東西溝は、東側の調査区においても確認されており、ちょうど坪を南北に二分する位置にあることから、地割溝であった可能性が指摘されています。

今回の調査は、市街地化のすすむ平城京跡にあって、一つの坪のほぼ全体を調査することのできた数少ない例といえます。従前の成果と合わせて、平城京内の土地利用のありかたを検討することが調査後の課題です。

（平城宮跡発掘調査部 次山 淳）



調査区全景（北東から）

## 旧大乗院庭園の調査（平城第374次）

興福寺から南に下り、奈良ホテルの建つ朝香山の南麓に、旧大乗院庭園があります。大乗院は、一条院と並ぶ興福寺の門跡寺院で、室町時代・宝徳3年(1451)の徳政一揆で焼亡した後に、尋尊によって復興されました。その庭園は、江戸時代末まで南都隨一の名園と謳われました。

1995年からの継続的な調査によって、現在庭園の中心に位置する東大池の西方に、西小池の存在が確認されました。今回の調査は、西小池の中央部と想定される部分と、東大池の西南隅を対象としています。調査は7月26日から開始し、現在も継続中です。

このうち西小池の調査では、想定とほぼ同じ位置で、西小池中央部の東西岸の汀線と、「ヲシマ」と呼ばれる池の中島、またその南西に位置する小島を検出しています。興福寺所蔵『大乗院四季真景図』で、これらは「連リハシ」によって結ばれて描かれており、今後の調査でその全貌が現れるものと思われます。

東大池西南隅部は、昨年秋におこなわれた調査の追加調査です。前回、近世の岸の下層で部分的に検出した入り江状に広がる洲浜の確認を目的としています。大乗院庭園のあるこの地は、平安時代は元興寺の別院・禅定院であったことが知られていますが、出土遺物によりこの洲浜が禅定院時代の遺構である可能性が指摘されています。今回の調査で、さらなる成果が期待されます。

残暑のなか、発掘調査は10月下旬まで継続する予定です。

（平城宮跡発掘調査部 大林 潤）



調査区西半（北東から）